

令和5年度 第3回松山地域協議会会議録

日 時 令和5年11月24日(金) 午後1時30分～3時30分

場 所 松嶺コミュニティセンター

出席委員 14名

平 向 邦 夫 木 村 美津枝

今 井 一 博 小 林 正 利 石 川 百合子 清 野 淳

富 樫 ともし 荘 司 東 一 加 藤 恭 子 齊 藤 薫

田 村 敬 子 櫻 田 憲 彦 井 上 亜紀子 荘 司 徳 由

欠席委員 1名

岩 崎 彩

酒田市出席者

松山総合支所長 鈴木 啓 介

松山総合支所長補佐兼地域振興係長 佐 藤 賢 治

松山総合支所長補佐兼建設係長 堀 伸 一

松山総合支所産業係長 工 藤 慶

健康課長 小 田 雅 之

健康課長補佐 丸 藤 真 也

1 開 会

○開会の言葉 佐藤支所長補佐

2 会長あいさつ

○平向邦夫会長よりあいさつ

3 議事録署名人の指名

○会長より議事録署名人に、加藤恭子委員を指名

4 協議

(1) 地域協議会市長報告会の政策提言について

(平向会長)

委員の皆様より事前にアンケートをとり、この中から回答の多かった3項目を今年のテーマとしたい。

→異議なし。

(平向会長)

それではこの3項目をテーマに設定し、今年の提言をまとめることとする。皆様より意見を頂戴したい。

(支所長)

お忙しいところアンケートへ協力いただき感謝申し上げます。皆様へ、いただいた意見をまとめたものを事前に資料として配布している。それと併せて送付した市長所信表明をご覧いただきたい。これは矢口新市長が9月定例会市議会冒頭で説明した所信表明である。その中でこの3項目についてふれており、市長の思いと本協議会の思いは凶らずも同じであった。双方同じ方向を向いて地域振興を考えていける。皆様より、事前に考えてきていただいた意見をもとに、地域協議会としての提言をまとめていきたい。

○テーマ1「高齢者等に対する、買い物支援を充実させることについて」

(今井一博委員)

高齢者もいろいろな方がいて対応が難しいと考える。買い物ができる高齢者はデマンドタクシーをうまく利用してもらい、買い物が終わるまで待ってもらえるなどの利用ができればいい。

(小林正利委員)

市で買物弱者対策のプロジェクトが進んでいると聞き、頼もしいと思った。高齢者は足腰が弱く買い物に出るのが難しい。移動販売車を早期に導入してもらいたい。広報等に運行表を出してもらえればいいと思う。

(石川百合子委員)

ワタライさんでも配達サービスをしていると聞いている。ワタライさんだけでは大変なので、コープ等のカタログ販売など大手から支援してもらえないか。もっと広くできればいいのでは。

(清野淳委員)

テーマ1と2を併せて、買い物支援だけでなく公共交通の充実をもっと視野に入れるべき。移動販売車を呼ぶよりは小型バスを利用して、週1回か2回、通院以外で高齢者を外に出すやり方を考えては。それで買い物の支援もできれば。

(富樫とも子委員)

移動販売車より週1～2回周っていただければだけで解決するのではないか。いきいき体操みたいに高齢者が集う場所にきていただければにぎわうのではないか。そういう機会を増やしてはどうか。

(荘司東一委員)

内郷地区には高齢者が買い物をする場所がない。内郷地区は平田地域へ買い物に行く方が多い。無印良品から月1回周っていただいているが、日用品や生鮮食品など普段使うものの取扱がないため利用者が減少している。コープ様やヨシケイ様も周っていることから地区住民からの需要調査が必要と考えている。社会福祉協議会へ調査をお願いできないか相談しているが、進展していない。具体的な需要調査をきちんとして対応すべき。

(荘司徳由委員)

南部地区では、個人の車や可能なら市から車を借りるなどして、1週間に1回の買い物ツアーを企画したいと考えている。家にこもっている人々を外に出したい。自分で欲しいものを買って買うことで頭の活性化になるのではと考えており、ボランティアを募って買い物ツアーを行うことで買い物弱者対策も解消するのではと考えている。法や財政面などの制限もあると思うので、それも含めて考えていただければ。

(井上亜紀子委員)

公共交通が充実しても高齢になると遠くに出かけることがおっくうになる。移動販売車を含む松山地域で買い物ができる店舗を誘致できないか、ネットスーパーなどの取組みがあるが、インターネットやスマートフォンを高齢者は使えないので、誰でも簡単に注文できる仕組みがあると買い物しやすい。

(櫻田憲彦委員)

出来ることを考えていきたい。すぐにでも出来ることとして、1歩踏み出し松山観光様で運行を請け負っているイオン様のシャトルバスを、まずは松嶺コミュニティセンター（以下「コミセン」）まで延伸してもらいたい。そこで実績をつくり、内郷コミセン、山寺コミセン、南部コミセンへ延長する。これであればすぐにでも実現が可能なのではないかと思った。

(田村敬子委員)

買い物に出たがっている人がいるのか。自分のまわりにはいない。子供が買い物の支援をしているケースが多い。移動販売車からきてもらった方がありがたい。

(齊藤薫委員)

公共交通の充実、移動販売車の充実、民間の販売、複合的に考えるとすべてあった方がいい。それぞれ希望する人がいるのでは。

(加藤恭子委員)

移動販売車から周ってもらう、乗合いで買い物に行くことへのニーズがどの程度あるのか調査をしてはどうか。

(木村副会長)

高齢者は外に出れるうちは出たいが、ある程度の年齢になると転んで寝たきりになるのが怖いので出たがらない。地元で買い物できるようにしてもらった方がいい。病院には怖くても行

くので、日本海総合病院で産直レベルのものをやっていたらとありがたい。

(支所長)

市長より買物弱者対策のプロジェクトを立ち上げるよう指示があった。初めての会合が月曜日（11月27日）に開かれる。買い物ツアーに関しては、山寺コミュニティ振興会で取り組みを行っていると聞いている。小林委員より紹介願いたい。今後、国よりライドシェアの方向性が示される。どういった運営母体となるのか、先行事例ではタクシー会社が運営しているところもある。そういった母体をどうするかなど検討課題と考える。

(小林正利委員)

山寺コミュニティ振興会の事業で、年に2回程度、買い物支援というよりは、引きこもりの高齢者の健康確認を目的に実施している。自家用車では違法行為にあると松山観光様よりアドバイスがあったことから、バスを借上げている。お年寄りには大変好評で皆さん出かけたがっている。この事業を続けていきたい。

(平向会長)

以前ホームセンターのチャンピオン様がTV中継をしながら買い物をする実証実験を立ち上げたが途中で頓挫している。それからは何も話はきていない。地域性で一緒に風呂に行ったり連れて行ったりしている。年寄りには外に出たがっている。連れて行ってもらいたいと声が出ている。移動販売も大切だと思っている。山寺コミセンの事業もとてもいい。農協もTV放送で買い物支援にも力を入れていると聞いている。食材の販売はしているようだが松山支店でも力を入れていただければと思う。市でも動き始めていると聞いている。もっと深めて提言できればと考えている。

○テーマ2「公共交通対策を充実させることについて」

(木村副会長)

バスを走らせてもらっても、結局誰も乗らないと思う。誰かが手を引いていかないと家族に頼るしかないと思っている。デマンドタクシーが一番無難な線だと思う。

(加藤恭子委員)

東部中学校のスクールバスは雪のある期間、走らない時がある。それはいつなのか。

(平向会長)

地域提言の話題から外れている。学校教育課の問題だが支所で把握しているか。

(支所長)

教育委員会へ確認して、後日加藤委員へ直接回答する。

(齊藤薫委員)

高校生の通学の足としてニーズがどの位あるのかは不明だが、せめて公立学校の登校・下校

の時間帯は走らせてもらいたい。松山地域の保護者は子供の送り迎えするのが当たり前となっている。それがあるだけでも親の負担軽減につながる。市の予算等諸問題あり、どのようにお願いしたらいいか分からないが手法も含めて検討していただけたら思う。

(櫻田憲彦委員)

先程発言した内容と同じ。すぐにでもできることとして、イオン様のシャトルバスを松嶺コミセンまで延伸してもらいたい。

(井上亜紀子委員)

自分事としてまだ実感ができないが、デマンドタクシーを充実させることが大切。利用者が利用しやすい料金にして、使い勝手を良くしてもらいたい。何回でも利用しやすい料金設定にしてもらえればいいと思う。

(荘司東一委員)

廃止前のるんるんバスに乗ったが誰も乗っていなかった。デマンドタクシーの活用をもっと周知していきたい。内郷コミュニティ振興会では、来年度から高齢者支援課の通所サービスを取り入れていきたいと要望している。山寺コミュニティ振興会での取組みを内郷コミュニティ振興会でも来年度取り組んでいきたい。

(平向会長)

その通所サービス事業の中心は社会福祉協議会との共催になるのか、内郷コミュニティ振興会の単独事業になるのか。

(荘司東一委員)

内郷コミュニティ振興会の事業となる。

(富樫とも子委員)

デマンドタクシーを使っている人に聞くと、時間の間隔が合わないと言っている。行きはいいが帰りの時間が合わず、ずっと待ってはいけなくてはいけない。1時間ごとに時間を設定していただくとかデマンドタクシーの充実をお願いしたい。

(清野淳委員)

デマンドタクシーは帰りが不便。使っている方とのニーズが合っていないから利用が増えないのではないか。また、にぎわいをつくるために松山地域にきてもらう便をつくるべき。今は自宅から目的地との往復しかできないが、週末だけでも酒田駅や余目駅から松山地域に来る便も考えていただきたい。

(石川百合子委員)

デマンドタクシーは帰りまでの時間が長すぎて使いづらい。もっと帰りの便の充実をお願いしたい。待ち時間が長くなると聞いている。

(小林正利委員)

デマンドタクシーで市内に行くと、帰りの便まで2時間も3時間も待たないといけない。ただし、庄内交通様もバスの運行は採算がとれないので撤退、ほとんどの人は車を持っているので、公共交通の充実と言っても実感がわからないのではないかと。充実したからと言って利用者が増えるかといったら増えない。まだ自分ごとではないので分からない。

(今井一博委員)

デマンドタクシーは出来る限りタクシーに近寄らないと利便性はよくなるのではないかと。高校生の送り迎えによる保護者の軽減のため、朝だけでも余目駅や酒田駅に走らせられないかと。

(平向会長)

公共交通は採算が取れない。本来公共交通は費用対効果が合わないもので市が進めるべきではない。デマンドタクシーの充実を提言していきたい。

(支所長)

デマンドタクシーの運用を、利用者目線で利便性のいいものにする、高校生の通学について保護者の負担に任せていいのか、地域外から来る方の便を検討することなどの視点で委員のご意見をもとに提言としてとりまとめたい。

○テーマ3「さんさんの再開、眺海の森の活性化について」

(今井一博委員)

公共施設をつくる際は国や県から補助金をいただけるが、維持運営は市の負担となっていることから施設を維持することが難しくなっている。それを無理に再開しても、また採算が合わないとのことで閉鎖を繰り返すのではないかと。今の状態で再開するよりは、星野リゾート様などの大手を誘致すべきではないかと。

(小林正利委員)

景色は絶景である。休憩所で軽食ができる規模で再開してもらえれば。今の状態で市外の観光客から来ていただけるのだろうか。イベントをしても観光客から来てもらえるのか。夕日をながめるとか星空をながめるとかテーマをつくって観光客を誘致できればいいのではと思っている。商業施設等と含めて何とかできないかと。

(石川百合子委員)

子供達を遊ばせる施設が近くにはない。家族と遊べるといったメインの場所になったらいいと思う。

(清野淳委員)

子供達の遊び場を要望したが、その後の維持管理・費用対効果を考えると実現は難しい。30-30（サーティー・サーティー）の見直しをお願いしたい。負の遺産だけではなく、将来にわたって残していける遺産をつくって子供たちが残って集まれる場所になってもらうとか、

季節に応じ、またインバウンド等の見直しをもって、外から来る人を呼び込める公共交通の見直しをしてもらいたい。テーマ2と3は重なり合う問題だと思っている。

(富樫とも子委員)

さんさんの再開は何年も待ち望んでいるが思うように進んでいない。どうやったら再開できるのか、再開できなくて終わりとはしたくない。せめて土日だけでも開けられないか。季節に応じて充実を図ってもらえれば。公共交通がないのはマイナスだが、出かける世代は車を持っているので、外から来ていただくためにも、何らかしらの施設は必要。知恵を絞ってこれだけはこのものを提言していただければ。

眺海の森は景色が売り。樹木が伸びてきて景色が見えづらくなっている。いつ来ても最高の景色が見れるよう樹木の伐採など管理をしていただきたい。

(荘司東一委員)

自然を前面にアピールする。草木塔から見る景色も素晴らしい。現状ではさんさんの再開は難しいと思うので、まずは景色の保全からはじめてはどうか。

歴史公園には観光客がきているので、歴史公園と眺海の森を一体でアピールしてもらえれば。

(荘司徳由委員)

人はぼつぼつという。コーヒーショップでもあればいいと思っている。10分景色を見て、ペットボトルのジュースを飲んで帰っていく。眺海の森に行ってもお金を使う場所がないと聞いている。どうすればお金を落としてもらい、長く滞在して、喜んで帰ってもらえるか、もう一度地元の人で考えられないか。歴史公園・総光寺・眺海の森・田沢ダムとの一体化した構想でもいいのではないか。もっとみんなで集まって煮詰める機会が必要なのではないか。お金をかけなくともできる取組みがないか話し合う必要があるのでは。

(井上亜紀子委員)

小さい子供が遊ぶ場がない。せっかく広大な土地があるのでメインとなる建物を建てて、小さい子供が遊ぶ場所にできないか。財政面といった問題があり、維持管理の問題もあるが、人が来ないと荒れていくので、人が集まるための場所があったらいいと思った。

(櫻田憲彦委員)

ネット等で検索するとアスレチックやキャンプ場は出てくる。他ではオフロードバイクやマウンテンバイクのコースが出てくる。またドローンを飛ばす場所がない。サバイバルゲームや森のレンタルなどもしている場所がある。

(田村敬子委員)

ミライニに眺海の森のパンフレットは置いてあっても、足がないとミライニから来ることはできない。

ダイヤモンドプリンセスに、羽黒山のオプションツアーがあると聞くが、ぜひ眺海の森に

も来てもらいたい。日本人が無理なら外国人の取り込みを。外国人の喜ぶ資源はあると思う。

(齊藤薫委員)

さんさんの活用の話が出ている民間企業との交渉はどうなっているのか。その話がダメになった場合は次をどう考えているのか。市はさんさんをいつまでも維持してくれるのか、民間で手を上げたところとだけ進めていくのか。市でどのように考えているのか考え方の整理をしてもらいたい。

箱物を作るのは無理でも今あるものを使えないか。以前は熊が出没することでキャンプ場もさびれていったが今はどこにでも熊は出没している。車でキャンプすることも流行っており、1人キャンプの需要は高い。東屋を活用することはできないか。

(加藤恭子委員)

みんなで遊べる場所が欲しいと言われおり、クラフトフェアを上でやってはどうか。多くの皆さんから景色を見てもらいたい。

(木村副会長)

伝承館・城址館で活動をしているが、酒田市のお茶会を松山地域で行うとなったときに、松山地域で人を集められるかと言われたが人を一番集めることができた。来てくれた人からは、皆いいところだと言っていただいた。ただ、皆が言うには食事をとるところがないと言っている。眺海の森をおりて蕎麦屋に行くか平田地域に行くしかない。松山地域で食べる場所がないのが難点。人が集まれる資源はあるが、食事は平田地域を案内するのが残念で仕方がない。

(平向会長)

さんさんは松山地域のシンボルである。去年は民間企業の活用ありきで進んでいた。どうやらその民間企業での活用が難しくなっている。皆さんが熱い思いでさんさんについて考えていただければ明るい光が見えるのではないか。何か別の方向性を見出すように提言したい。環境を整え、休憩できる場とし、人の集まるイベントを考えていただければ。

(荘司徳由委員)

これだけの意見や提案が出ている。今後これらを詰めていく場はあるのか。

(平向会長)

地域協議会は要望の場ではない。市の施策に松山地域をどうやってビジョンをつくっていったらいいのか地域住民が考え、酒田市の当局に上げていく場。それを理解していただきたい。

(小林正利委員)

眺海の森の保全是だれがやっているのか。

(支所長)

森林保全協会がやっているのので県の予算で行っている。

(小林正利委員)

県の予算であれば。展望台前の杉も管理できないのか。

(支所長)

展望台は県の管理区域外となっているが、市の要望として県に伝えてはいる。

さんさんについては、せめて軽食くらいとれるようにする、土日くらい開けてもらいたい、など思いは皆さん一緒だと思う。事前のアンケートにはチャレンジショップといった内容もあった。チャレンジショップであれば経費もそんなにかからない。市当局へそういった意見をもとに提言をまとめていけたらと思う。それと合わせて景観が売りであるので環境の保全もおこない、夕日をテーマとした写真コンテストなど眺海の森をアピールするイベントの企画など、委員の意見をもとに提言をとりまとめたい。

(平向会長)

それではこの3点について、事務局と提言書の原案を作成する。

委員の皆様がよろしければ、事務局と会長と副会長で精査して提言をまとめて、4回目の協議会は書面でおこないたいと思うがいかがか。提言書が出来次第、皆様へ郵送するので、意見書を返送いただく形で考えているがいかがか。

→異議なし

(平向会長)

4回目の協議会は書面で行う。

5 その他

(1) 病院機構シャトルバス運行の見直しについて（健康課）

～小田課長より、病院機構シャトルバス運行の見直しについて報告～

- ・シャトルバスは、令和6年3月末で廃止する。
- ・シャトルバスの乗車対象者が、デマンドタクシーを利用する場合は回数乗車券を交付する。

(荘司徳由委員)

南部地区の住民は、今までは診療所に来ないとシャトルバスに乗れなかった。今度は南部地区の方々も対象になるということでいいか。

(健康課長)

そのとおり。

(荘司徳由委員)

今後は、乗車する方については、本来の乗車目的に沿ったかたちで、きちんと分けするというでいいか。

(健康課長)

そのとおり。今までも分けはあったが乗車時に確認はしてこなかった。今後は本来の目的

に沿った使い方をしていくことになる。

(荘司徳由委員)

デマンドタクシーにした場合、どの位の予算を減らすことができるのか。

(健康課長)

本来の使い方をされている方は、松山地域で5%位、八幡地域で30%位いらっしゃる。試算すると100万程度でおさまることが見込まれる。

(2) その他

(支所長)

事務局でその他として用意しているものはない。

(荘司徳由委員)

酒田市でSNSはやっているのか。ユーチューバーでフランス人と結婚した内郷地区の方のユーチューブが100万人のフォロワーがいて、酒田市のアピールもしている。そのような方から眺海の森の発信もお願いできないだろうか。

(佐藤補佐)

酒田市では各年代に届くよう、LINE、フェイスブック、旧ツイッター、インスタグラムなど市公式アカウントより配信を行っている。市との関係は調査してみる。

(平向会長)

予算時期は終わっているのか。前回の合同会議において3支所で自由に使えるお金を要求していこうと会議で話題となった。まちづくりのために何かを立ち上げるなど、地域の活性化のため、予算化をお願いしたいといった取り組みには予算がつくようなので、そういうイベントを考えていただければ。

6 閉 会

(平向会長)

これで第3回松山地域協議会を終了する。円滑な議事進行に協力を賜り、感謝申し上げます。